

施策評価シート （評価対象年度：平成30年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	2 地域間交流の推進	② 施策番号	1302
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	1 市民すべてが平和を希求するとともに、互いの存在を尊重し信頼しあい、いかなる差別もなく、一人ひとりが大切にされる人権文化のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 国際交流・多文化共生の推進		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
総合政策部	政策推進課		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	市民や市民活動団体
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	市民や市民活動団体団体に、他地域と交流する機会を提供することで、新たな文化の発見・創造や地域社会と地域経済の活性化につなげる。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	関西国際空港のインバウンドが急激に増えた現在、自らの地域だけでなく、国内及び国際的な交流を求める機運は高まっている。またそれらインバウンドを受け入れる地域として、準備を進める必要が生じている。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 交流した地域数 計算式:実数をカウントする	件	より多くの地域と触れ合うことが、新たな創造や活性化の多彩化につながるため。
② 地域交流に参加した市民等団体数 計算式:実数をカウントする	件	地域間交流活動の活発さは、その活動の主体者である市民・団体の実数で表せるため。
③ 計算式:		

指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考	
① 交流した地域数	件	目標値	1	1	1	1	1	
		実績値	0	1	1	—	—	
		達成率	0.0%	100.0%	100.0%			
② 地域交流に参加した市民等団体数	件	目標値	1	1	1	1	1	
		実績値	0	1	1	—	—	
		達成率	0.0%	100.0%	100.0%			
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

〔3〕施策を構成する事務事業

事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
	指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価	今後の方向性	
1 地域交流促進事業	参加人数	人	2	2	2	402	811	811	B	イ b	
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
計	1					402	811	811			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	国内における地域間の交流推進からは、地域間の同異を知ることができるため、改めて自らの地域を見つめ直すきっかけとなり、地域アイデンティティ確立に資するものとなる。また、自地域外の方をお迎えする「おもてなし」意識の醸成にもつながる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	地域間交流としては、長年伸長がみられず、停滞している状況がうかがえる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	国際市民マラソンという巨大なイベントの内、ごく一部の事業(招待選手の招聘)を切り出しているものであり、当該施策に関しては関与は適切と認識。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	本来、市全体で行われている地域間交流をまとめるべきであり、現行のように特定一課のみの事業を挙げるのみでは不十分ではないか。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのよう考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	限られた行政リソースを適切に施策推進に活かす観点に立ち極論すると、当該施策に大きなリソースを配分する必要は見出しにくい。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	
一次評価			A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	C	国際マラソンへの選手招聘だけではなく、より現実的に本市市民等と他地域の市民等が触れ合い、活性化することができる地域間交流事業を推進する必要がある。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	他市事例などを調査・研究し、今後の地域間交流の在り方を検討する。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	新たな地域間交流の担い手となる市民団体等の育成及び新たな地域との交流に向けた調整の実施。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	より密接に交流を図ることができる地域等と交流を進め、新たな姉妹都市提携などの締結の検討。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	
二次評価			A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	C	他地域との交流は、自分たちの住む地域を見直すきっかけになり、また、地域社会と地域経済の活性化にもつながる施策である。他の施策・事業との展開など、活性化に向けた取組を期待する。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある